



書評

《シリーズ・高次脳機能の教室》

記憶障害の診かた

河村 満 シリーズ編集

石原 健司 著

高次脳機能が苦手でもわかる！ 記憶障害の最良テキスト

【評者】 前島 伸一郎 国立長寿医療研究センター長寿医療研修センター長

本書は、河村満氏が編集する《シリーズ・高次脳機能の教室》の1冊として刊行されました。著者は、長年にわたり高次脳機能障害の診療と研究の最前線に立ち続けてきた石原健司医師（旭神経内科リハビリテーション病院）です。

石原氏は1995年に千葉大学医学部を卒業後、昭和大学、亀田総合病院、汐田総合病院などの神経内科で研鑽を重ね、2006年に昭和大学神経内科講師に就任、2016年より現在の旭神経内科リハビリテーション病院に勤務されています。神経症候の精緻な観察、神経病理に基づいた深い理解、そして画像診断における卓越した読影力を兼ね備えた、まさに現場と理論を融合する第一級の臨床家です。

その豊かな経験と知識は、本書にも余すところなく反映されており、「高次脳機能障害は苦手」と感じる臨床家にとって、まさに福音ともいえる内容となっています。専門的でありながらも丁寧に平易な記述が貫かれ、これほどまでにわかりやすく記憶障害を解説した書籍は、

これまでほとんど例がありません。

構成は第1章「記憶の分類」から始まり、第2章「記憶障害の分類」、第3章「記憶障害を生じる脳病変部位と疾患」、第4章「記憶の検査方法」、そして第5章「症例検討」へと続きます。特に第3章では、疾患ごとの画像と詳細な模式図が豊富に掲載されており、視覚的理解を助けてくれます。第4章では、臨床現場で用いられる記憶検査が網羅的に紹介されており、読者が即座に実践へと結びつけられるよう工夫されています。

なかでも第5章の症例検討は、先生と生徒によるQ&A形式で進行し、記憶障害の評価から画像診断、診断確定に至るプロセスが臨場感あふれる筆致で描かれています。まるで診察室に同席しているかのような臨在感に満ちており、若手医師や学生にとって実に貴重な学びとなるはずです。

また、各章末には要点の整理と確認のためのQ&Aが付されており、知識の定着にも配慮さ

れています。医学生や若手療法士はもちろん、日本神経心理学会と日本高次脳機能障害学会が共同で認定する「臨床神経心理士」資格の受験対策にも有用です。

加えて、コラム欄には“Squire”や“Tulving”といった記憶研究の大家の紹介や、「自伝的記憶の分類」「蛋白質異常症」の解説など、関連分野に関する知識が広がる工夫も随所に見られ、読み物としても飽きさせません。

《シリーズ・高次脳機能の教室》というシリーズ名にふさわしく、記憶障害の全体像を系統のかつ親しみやすく学べる本書は、医療関係者のみならず、心理学や脳科学に関心のある教養人にも広く薦めたい1冊です。

高次脳機能障害の臨床に携わる全ての人が座右に置くべき、まさに現場のための決定版といえるでしょう。

A5判・頁192 2025年5月
定価：3,850円（本体3,500円＋税10%）
[ISBN978-4-260-06030-1] 医学書院刊

